

令和6年度第1回恵那市ICT活用推進委員会 議事録

日時：令和6年7月25日（木）午後1時30分

場所：恵那市役所会議棟大会議室

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 委員長・副委員長選出
4. 議事

- ・第2期恵那市ICT活用推進計画の計画期間見直しについて 資料No. 1
- ・次期総合計画の策定について 資料No. 2・3
- ・意見交換

5. 閉会

■委員

	選出区分	団体名	氏名
1	学識経験者	法政大学理工学部	藤井 章博
2	学識経験者	法政大学大学院	山崎 泰明（欠席）
3	商工団体	恵那商工会議所	古山 紀昭
4	商工団体	恵那市恵南商工会	瀬戸 利之（欠席）
5	教育団体	恵那市小中学校校長会	楯 博子（欠席）
6	防災団体	恵那市防災研究会	岩井 慶次
7	福祉団体	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征（オンライン）
8	その他団体	恵那市地域自治区会長会議	平林 道博
9	副市長	恵那市	大塩 康彦

■DX推進監

1	情報政策課（ソフトバンク株式会社）	竹内 武司
---	-------------------	-------

（事務局）情報政策課 小林、鈴木、古田、森山

■傍聴者 0名

1. 開会

■事務局（進行）

これより令和6年度第1回ICT活用推進委員会を開会いたします。

本日、紀岡委員の1名がオンラインでの参加となりますので、よろしくお願いいたします。

また、山崎委員、瀬戸委員、楯委員の3名から欠席のご連絡をいただいております。

会議の公開及び公表については、「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、原則公開とし、会議録につきましても公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。

会議を始めるにあたりまして、本日の全体の流れをご説明したいと思います。本日の次第をご覧ください。

このあと委員の委嘱、委員長、副委員長の選出、議事、本日は議題が2つございます。その後、その他ということで、次第には記載されておりますませんが、前回の委員会にて進捗管理について、ご意見等いただきましたところについて、次回第2回委員会にて、詳しくご説明する予定ですが、補足的な部分を少しご説明したいと思っております。最後にDX推進監の竹内さんから「生成AIの最新動向」について、情報提供の方いただきたいと思います。会議の終了予定時間は14時30分ということで予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは次第に沿って進めさせていただきます。

2. 委員の委嘱

■事務局（進行）

今回ご出席いただきました皆様におかれましては、昨年度から引き続き委員の方をお願いしております。今回の任期につきましては、令和6年7月1日から令和7年度末ということで、2年間ほどになります。引き続き、ICT活用推進委員会の委員としてお力添えいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

新たに今回交代された委員ですが、瀬戸利之様は商工団体、恵南商工会からの選出となります。続きまして、楯博子様は教育団体、恵那市小中学校校長会からの選出となります。

本来であれば、委嘱書をお一方ずつお渡しするところではございますが。時間の関係で、机上に配布させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

3. 委員長・副委員長選出

■事務局（進行）

恵那市ICT活用推進委員会設置要綱第5条の規定により「委員の互選による」とある。

選出にあたりまして、ご意見はございますか。

もしご意見がなければ事務局案にて推薦してもよろしいでしょうか。

〔 「異議なし」 の声あり 〕

■事務局（進行）

ありがとうございます。それでは、委員長に、法政大学の藤井章博様、副委員長に、商工団体選出の古山紀昭様を推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。

〔 拍手あり 〕

■事務局（進行）

それでは、藤井委員長の方から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

■藤井委員長

足掛け6・7年このプロジェクトに関わらせていただいている。今日は、後半にA Iのお話がありますが、I C Tの分野はいつも新しい単語が出てきて、D Xもその1つだと思う。A Iに関しては、本物だと思います。この非常に大きな変革の中にあって、それはぽっと出てきたものではなく、ずっと水面下で着実に進化してきたものが花開いている状況と言えるもの。地方の行政には、例えば自動運転であるとか、そういうものにはかなり影響が出てくるのではないか。この委員会でも、ぜひそのような技術を睨みながら将来の恵那市のためにできればと思っております。

■事務局（進行）

ありがとうございました。それでは、議事に入る前に、委員会を進めるにあたってご説明したいと思います。議事進行につきましては、藤井委員長様にお願いしたいと思います。議事につきましては、初めに事務局からご説明いたします。その後、事務局から全ての説明が終わりましたら質疑に入っていきたいと思います。それでは、議事進行を藤井委員長様、よろしくお願いします。

■藤井委員長

第2期恵那市I C T活用推進計画の計画期間見直しについて、事務局からご説明よろしくをお願いします。

4. 議事

- ・第2期恵那市I C T活用推進計画の計画期間見直しについて
- ・次期総合計画の策定について

〔 事務局から資料No.1に基づき説明 〕

■藤井委員長

どうもありがとうございました。質問が出そうな内容について、まず私からにしたいと思います。市の総合計画は、5年でやってきたものが、これから4年でやっていくってこと、これは恵那市だけの取り組みですか。それとも全国的にこのような流れですか。

■大塩委員

4年にしているところは非常に多くなりました。市長任期も4年ということもあるので。ただ、その期間がやっぱり5年は少し長すぎるということで、4年に短くなってきている。

■藤井委員長

それは各自治体が選んでいるのか。

■大塩委員

選んでいます。恵那市は5年という期間で考えていましたけど、岐阜市とか結構早いところは、4年である。今回、総合計画の基本構想の部分が20年と長い期間になりました。基本構想今までは10年で決めていたが、そこをもう少し、基本構想の部分は変わらないので、逆に長くしておいて、基本計画のところで短くしていこうと。タイムリーな動きにしようという期間を変更しました。

■藤井委員長

わかりました。ありがとうございました。

■大塩委員

このことについて結構議論がありました。内部で総合計画は、市長の施策と合わせるべきなのかどうなのかとか。そのようなところの議論もありましたが、期間もあるけど、施策も変わってくるので、短期の4年にした方が良いのではないかなとなった。

■藤井委員長

どうもありがとうございました。もう1点、ICTの分野は逆にサイクルが早い、技術進化、それから社会変化も早いので、むしろ4年にしたのであれば、ICT活用推進計画はむしろ2年とか、短くして改定させていくのが妥当なのではないかという意見もあるのではないかな。その辺はどうでしょうか。

■事務局

基本方針が4年ということで定めさせていただきますが、当然大きく変わった場合は更新していくような文言も入れないといけないのかと思っています。行動計画も4年、これは

基本方針に合わせた期間になっていますが、毎年毎年更新していく、場合によっては新しいものが盛り込まれるなど、すごく変わることも想定されますので、総合計画と合わせるが、臨機応変に立ち回れるようにしたいと思っています。

■藤井委員長

ありがとうございました。それでは委員の皆さん、ご意見ございますのでしょうか

■岩井委員

先ほど委員長がおっしゃったように、4年でもまだ長い。防災でも、防災にDXとかMCとか、色々な情報が入ってきている。4年待てとなっても待てない、先ほど事務局から話があったように、進行管理もするが、プラスアルファの部分を臨機応変に入れていかない。

例えば4年の期間を、2年2年の前後期にするとか、何か考えられるのではないかな。

■藤井委員長

定例のこの会議で積極的に議論していくのも、1つかもしれない。

■岩井委員

そのような文言を入れていただくようお願いする。そして決まったものに関しては進行管理にしていく。

■大塩委員

例えば、今年度急に入ったもの、それは国の動向によってですが、自動運転の実証実験があります。この事業については県の事業で、この地域の東濃5市と、そして下呂市を含めた6市が手を挙げて、事業採択を受けます。このように急に、話が出てくる部分がありますので、その都度計画を臨機応変に考えていく形にしないといけない。

■平林委員

総合計画と整合性を図るということはすごく大きなこと。これは直接の会とは関係ないが、他の部署も同じように総合計画に合わせて、延長した現在の計画を、例えば福祉の計画や教育の計画とかたくさんの計画があると思うが、市全体として全て総合計画に合わせるというような方針でしょうか。

■大塩委員

そこも議論がありまして、できるだけそのようにしていこうと。要するに、20年の基本構想の計画、そして4年ごとにローリングしていくという形になりましたので、できるだけそれに合わせていこうということで、市役所としてはコンセンサスしました。ただ、つい最

近策定した計画、去年策定した計画もありますので、そのような計画については、少し時間を置いて、どのようにしていくか、結果として合わせていく。去年策定して10年という期間となっていますので、どのようにしていくかをそれぞれの担当部署で検討していく。すごい数の個別計画がありますので、全てを一括りにすることできない、それからすごいエネルギーが必要となるため、それぞれ個別で検討していくよう、宿題としてあります。

■藤井委員長

I C T活用推進委員会に関しては、いち早く次年度から合わせられる。

■大塩委員

私から事務局には、3年の期間を4年に延長するが、今の計画を3年から4年に延長するものなら意味がないので、令和7年度に取り組み予定であった施策は1年しっかり事業に取り組むようお願いしました。3年のものを4年でやろうというものでは困りますので。

■藤井委員長

ありがとうございました。今、大塩委員からのご回答でしたが、他にご意見はいかがでしょうか。

それでは、第2期恵那市I C T活用推進計画の計画期間見直しについては、事務局からご説明があったとおり、お認めしたということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔 「異議なし」の声あり 〕

■藤井委員長

続きまして、次期総合計画の策定について、引き続き事務局よろしくお願いします。

〔 事務局から資料No.2・3に基づき説明 〕

■藤井委員長

ありがとうございました。「20年後の理想の恵那市はどんなまちですか？」委員の皆さん、どう思いますか。まず、私から質問ですが、このように問われて考えて答えるのもいいですが、話が大きすぎて答えにくいというのが正直なところ。もしこの先、市民に問うていくとすると、問い方の戦略みたいなものが多少あるといいと思う。誘導してはまずいが、意見が出やすいような形の問いかけにしていかないと、漠然とありきたりのものしか出てこないと思いますが、委員の皆さんどうでしょうか。

■大塩委員

例えば何かバックになっているデータとか、そういうものか何か。

■藤井委員長

そうです。私はたまたまですが、科学技術政策研究所というところで、科学技術政策の将来像に関わった時は、こういう聞き方をしている。

「〇〇の実現はいつ頃ですか」「その実現された後に、それが社会的な応用されるのは何年後ぐらいですか」と聞く。そのタイミングが長いのか短いのかで、それぞれの項目について特徴が出てくる。さらに重要なのは、それを示していくことによって、聞かれている方はこんなこともあるというのが刺激になる。それ以外の意見をちゃんと持てる、そのような項目を上げるのにかなり労力を使います、この技術この技術この技術という感じ。

ここでは「20 年後の理想の恵那市」という聞き方と同じことになると思うのですが、例えば福祉に関して「なんとかなんとかの実現は重要ですか、そうではないですか」あるいは「何年後に我々の実現ができますか」そのようなブレイクダウンをしていくと聞きやすいと思います。参考までに、科学技術政策に関してはデルファイ調査というがあるので、調べていただいて、それは技術分野の話ですが、それ以外でも使えるのではないかと。

■大塩委員

次期総合計画策定については、所管する企画課の方へ今の話を共有してほしい。データとしてこうあるなど、例えば現実的にリニアとか、人口はどうなるとか、バックデータなど。

■事務局

はい、わかりました。

■平林委員

藤井委員長の意見と関係するのか、関係性がわかりませんが、やはり「20 年後の理想な恵那市はどんなまちですか」とか、「理想の恵那市に近づくためにどんなことが必要ですか」と行政の方は聞かれますが、さっき話があったように、ある程度、今日までやってきてどういう成果があったか、どういう課題が残ったかというように、たたき台みたいなものを持って、行政としては「このように考えているけどどうですか」と聞いてもらえれば、意見が言いやすいのではないかと思います。あまりにも唐突過ぎて、その 20 年後なんてと思う。

■大塩委員

実はこの議論は 20 年後の話をした時に、部長クラス全員で話したが、私も含めて。20 年後の話をしたら、最初に出たのは「俺達はいないな」という話になった。そうではなくて、0 歳児が 20 歳ということもあるだろうし、色々な考えがあるから。確かに平林委員が言わ

るとおり、漠然とし過ぎている。

■平林委員

後でお話があると思うが、きっとA Iなども、各段に日々進んでいくと思うし、コンピューターが入れ替わって、現在の職業も半分以上がなくなってしまう話もある。さっき言われたみたいに、今後の年表みたいに今後こうなっていくのだろうと、そのように何か出してもらうといいのではないか。

■大塩委員

今回皆さんに聞きたいのは、I C Tだけのこと。

■事務局

なんでも結構ですので、ご意見がいただければと思います。それぞれの個別計画にて、このような形でご意見いただいています。I C Tの分野については、総合計画においても、横断的に関わってくるところになるかと思っています。企画課からは、どのようなご意見でも広くご意見をいただくよう説明を受けています。

ご意見については、事務局から企画課にお伝えしますので、よろしくお願いします。

■藤井委員長

会議終了後も、こちらの回答フォームにてご対応いただければと思います。

それでは本日の議事については全て終了しましたので、事務局にお返しします。

■事務局（進行）

ありがとうございました。議事に関しては、これで終了させていただきます。色々ご意見いただきまして、ありがとうございました。続きまして、事務局から事業の進捗管理についてご報告させていただきます。

〔 事務局から進捗管理について報告 〕

■藤井委員長

どうもありがとうございました。続きまして、竹内D X推進監より「生成A Iの最新動向」について、よろしくお願いします。

4. その他

- ・生成A Iの最新動向について

〔 竹内D X推進監より生成A I の最新動向について 〕

■藤井委員長

ありがとうございました。大変勉強になりました。もしご質問があれば、どうですか。

■古山副委員長

生成A I から天才的な発想はでますか。創造性の部分は。

■竹内D X推進監

情報を整理して出るような発想は出やすいのではないかと思います。例えば人間が雑談の中で思いつくような、あるいはよく言われる、お風呂に入っている時にすごい引っかかりが急に解けたみたいなのは、どのようなメカニズムで動いているかわからないので難しい。それはまだ人間の方が得意だと思う。情報を整理した企画みたいなものはA I でもできる。

■古山副委員長

例えば 20 年後の経済予測は、多分当たらないのではないか。それをA I はできるようになるのですか。やっぱり予定外というか、想定外というものは必ずでてきますよね。

■竹内D X推進監

やはり想定外は想定外なのかなとは思いますが。

ただ、それを考えるために膨大な情報を処理するのは、当然に物理的に人間より早くできるので、そこをうまく使えばそれを活かしていくことができる。

ただ、肌感覚みたいなどうしてもあると思います。そこがA I はまだまだではないか、難しいのかなということは個人的に思います。

6. 閉会

■藤井委員長

よろしいですか。それでは本日の委員会を閉会させていただきます。最後に古山副委員長から閉会のご挨拶をお願いします。

■古山副委員長

日々の仕事に追われて、昨日のこと、今日のようなことやっていると、例えば、久しぶりにインターネットに入ったりすると、いつもと手順が違うので、「あれ、わからない。」ということで困っちゃって。でも、その手順を覚えると、また来年あたりにまた違う手順になってしまうなんてことがいっぱいある。今、覚えることが必要なのかなとか、やっつけていいのかなとか。将来、逆に自分が年寄りになった時に、不安と言っていましたけど、私も本当

に果たして今の電子レンジがうまく使えないとか、洗濯機もうまく使えないとか、便利なはずなのに使えないというのがちょっとありますので、私もそうなるのではないかと不安です。終わります。以上、ありがとうございました。

〔 閉 会 〕